



環境活動での信頼

当社の環境方針に則り、環境保全活動を推進することで、資源循環型社会の構築に貢献しています。

環境マネジメント

環境方針と推進体制

環境保全活動の基本となる環境方針を定め、その推進体制を構築しています。

環境方針

〈理念〉

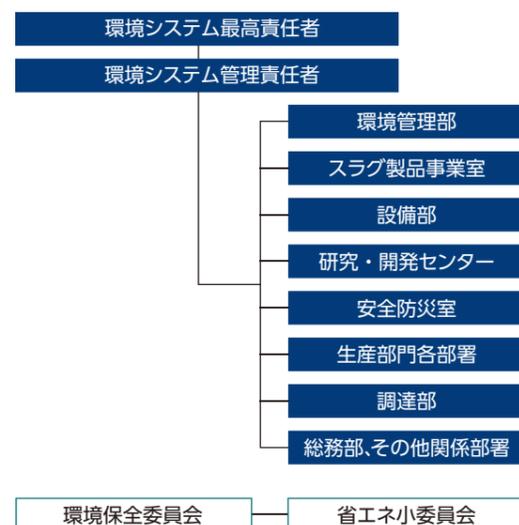
我々は、地球温暖化、大気・水質・土壌の汚染、廃棄物問題などの環境問題が人類共通の重要課題であることを認識し、北に世界文化遺産国宝「姫路城」、南に瀬戸内海国立公園を臨む豊かな環境に立地する企業として、事業活動の全ての段階において、環境の保全に配慮し循環型社会の構築に貢献する。

〈方針〉

当社は、特殊鋼及び非鉄金属を製造・販売する工場であることを踏まえ、以下の方針に基づき環境マネジメントを実施する。

- 1) 鉄スクラップを原料とする鉄鋼製品の製造を通じて、金属資源のリサイクルに貢献する。
- 2) 環境関連の法律、規制、協定等を順守するとともに、環境パフォーマンスを向上させるために、環境マネジメントシステムの継続的改善に努め、環境に影響を与える恐れのある事業活動を責任をもって管理する。
- 3) 事業活動の全ての段階で環境への負荷を低減し、環境保全、気候変動の緩和に貢献するため、省資源・省エネルギー、副産物の再資源化・廃棄物の削減、及び汚染物質・温室効果ガスの排出抑制を推進し、また、環境負荷低減に貢献する製品を開発し、環境汚染の予防に努める。
- 4) 環境保全活動を取組むにあたり、従業員一人一人の環境意識の啓発に注力する。
- 5) この環境方針達成のために、環境目標を設定するとともに、少なくとも1年1回これを見直し、必要に応じて改訂を行う。
- 6) この環境方針を全従業員に教育訓練により周知徹底させ、環境システムを確実に運営管理するために、環境管理部長を環境システム管理責任者に任命する。

推進体制



環境マネジメントシステムの運用

当社は、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得し、毎年の内部監査と外部審査を通じて定着を図っています。

内部監査では、若手従業員も監査の場に同席し、環境マネジメントシステムへの理解促進につなげるとともに、システムの改善に取り組んでいます。また、管理職を外部講習会へ派遣するなど、内部監査員の継続的な養成にも力を入れています。

関係会社では、サントクテック株式会社がISO14001の認証を取得しています。

2016年度審査状況

2016年度の外部機関によるサーベイランス審査では、環境マネジメントシステムを適切に維持実行し、有効活用していると評価され、ISO14001の認証登録が継続されました。

環境保全への改善計画

当社では、環境保全に関する改善計画を策定し、環境負荷低減につながる有効な諸施策を日常的・継続的に実施しています。

環境保全改善計画と2016年度実績

項目	取り組み方針	中期計画	2016年度実績
省エネルギー・地球温暖化対策	省エネの推進 ● 加熱炉のリジネバーナー化 ● 大型モーターのインバータ化 ● 照明機器のLED化	● CO ₂ 排出量の削減 (目標: 2016年度にBAU※比1.1%削減)	以下の取組等により削減目標達成 ● 大型モーターのインバータ化 ● 照明機器のLED化 ● 旧式空調機の更新 ● 高効率コンプレッサーの導入
副産物の再資源化	● 生産活動における副産物の低減と資源の有効利用	● ガスト、汚泥の埋立量削減 ● レンガくずのリサイクル率向上	● ガストのリサイクル業者への委託 ● レンガくずの耐火物原料としての利用
法令順守	● 水質汚濁防止法、大気汚染防止法に基づく規制基準の順守	● 規制基準の順守	● 全項目において規制基準順守
工場緑化の推進	● 工場内緑化の推進 ● 植樹による景観の整備	● 工場立地法規制緩和による敷地の有効活用	● 条例制定により緑地面積率が緩和され、緑地の有効利用を検討
従業員への教育・啓発活動	● 従業員への教育・啓発活動の定期的実施 ● 環境に関する公的資格保有者の増員	● 従業員への教育・啓発活動の定期的な実施 ● 環境関連資格者数の増員	● 地域美化活動に参加(約300名) ● 環境家計簿の記録(30名)
情報開示の推進	● ステークホルダーへの積極的な情報の提供	● 環境報告書の定期的発行 ● 自治体などの環境行政への協力	● 「CSR報告書2016」の発行、ウェブサイトでの公開

※ 特別な対策をとらないケース(Business As Usual)

環境意識の啓発活動

環境パトロールや環境連絡会議を通じ、従業員一人ひとりの環境意識の啓発に注力しています。

従業員の意識向上

当社は、環境保全活動に取り組むにあたり、従業員一人ひとりの環境意識の向上が重要と考え、新入社員教育など、階層別環境研修会を定期的実施しています。公害防止管理者などの環境保全に関する資格取得を推進するための報奨制度も設置し、従業員による環境家計簿の作成にも毎年取り組んでいます。

また、毎月、役員・部署長が中心となって環境パトロールを実施し、環境に関連する設備の管理状態を確認しています。

加えて、環境連絡会議を開催し、意見交換を行い環境情報を共有するなど、一人ひとりの環境意識の向上に向けた活動を推進しています。



新入社員向け環境教育

環境コスト

環境省のガイドラインを参考に、環境保全活動に要したコストを示します。

2016年度 環境保全コスト

分類	費用	投資
1. 事業エリア内コスト	2,777	449
2. 上・下流コスト	0	0
3. 管理活動コスト	122	0
4. 研究開発コスト	24	0

分類	費用	投資
5. 社会活動コスト	19	0
6. 環境損傷対応コスト	12	0
合計	2,954	449

単位: 百万円